
チョコチップ

不足茶野

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

チョコチョコップ

【Nコード】

N1547B

【作者名】

不足茶野

【あらすじ】

彼女にふられてイメージチェンジするために入った美容室。そこにいた男のすすめる「チョコレートケーキ」という髪型とはなに？

僕は初めて美容院というものに行くことにした。
理由は簡単で彼女に振られた、腹いせ。つまり、イメージチェンジである。

場所は近所にある「美容院 BAR BAR キムラ」。
しばらく店名を見て考えたが、思い切って入る事にした。
中はそんなに広くなく、あんまり床屋と変わらない気がする。
ただ、何となく美容院というだけでオシャレな気分になるのは僕だけだろうか？

匂いも違うし、何となく髪を切る器具も違う気がする。

「いらつしやいませでございます」

出てきた美容師は中年の男だった。

僕はもつと若い美容師さんが出てくるのかと思った。
思わず「チェンジ」とかいそいになったが、あと一歩のところ
で留まり、椅子に座る。

「今日はどんな髪型にいたしましょうかで、ございますか？」

『で、ございますか？』は、いらないだろ。と思いつつ、僕は考
えた末、答えた。

「あの・・・お勧めつてありますか？」

今考えればバカな注文をしたもんだ。

それでもその時はこの美容院の実力を測ってやるだなんて大層な
事を考えていたのだ。

すると、中年美容師は速攻で答えた。

「チョコレートケーキでございます！」

「え？チョ、チョコレートケーキ？食べ物なの？……それってどう
いう髪型なんですか？」

中年美容師は僕の肩越しに顔を近づけ言った。

「チョコレートケーキのように“激しい”感じでございます」
耳に息がかかる。気持ち悪い。しかも意味が分らん。

「ぜひ、ぜひ、チョコレートケーキにしないで、ございます」
丁寧なのか、えらっそうなのかドツチなんだよ。相変わらず僕の真横には中年美容師の顔がある。

なんか、すごいプレッシャーだ。負けそう……

とか思っている間にすでに用意は始まっていた。

「ちよつと、まだ僕は何も言って……」

「動かないで！！でございますー！！」

変な液体をかけられた。やたら塗りこまれる。僕は動けない。

その後、中年美容師はサランラップを頭に巻きつけた。

僕は何となくこの髪形の正体が分かった。

「チョコレートケーキって単なる茶髪のこのじゃないんですか？」

中年美容師のラップを巻きつける手が止まる。

暫く動かなかった中年美容師は再び動き出した。

ものすごい速さで頭のラップをすべて巻く。

「薬品が定着するまでお待ちくださいで、ございますー！！」
というと、僕の頭にチョコップを食らわせた。

「薬品が定着するまでお待ちくださいで、ございますー！！」
僕の頭にチョコップ。
いてっ！

「薬品が定着するまでお待ちくださいで、ございますー！！」
僕の頭にチョコップ。
痛いって！

「薬品が定着するまでお待ちくださいで、ございますー！！」

僕の頭にチョップ。
いい加減にしろっ!!!。

どうやら、僕にチョコレートケーキの正体を見破られたのが、悔しかったらしい。

僕は多少の優越感を味わった。

だけど、美容師のチョップで気分は最悪になった。

「最後は仕上げに“切なさ”を入れますで、ございます!!」
もう考えるのも嫌だったので目を瞑ることにした。

「はい、切なさでございます。目を開けてくださいでございます」
嫌々僕は目を開けることにした。

「えっ!?!」

僕は目の前のそれを見て絶句した。

なんと別れた彼女がそこに居た。

「なんで、お前がここに居るんだよ」

彼女は何も答えない。ただ微笑んでいるだけ。一番仲が良かったときの笑顔そのまま。

僕は少し切なくなった。

「お客さん、お客さん」

僕はそこで目が覚めた。

「お客さん、すいません。ちょっと、私が目を離している間に家の父がカットしちゃって」

目の前には二十歳過ぎの若い女の人が立っていた。

「私に内緒でよくやるんですよ。自分はもう引退したのに」

「で? お父さんは?」

「その辺漂っていると思いますよ。あつ、ちなみに父は去年死んだ幽霊なんですけど」

僕は上を見た。僕の頭には確かにラップが巻かれていた。(終わ
り)

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1547b/>

チョコチョップ

2010年10月17日09時15分発行